

# 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Allergic disorders and risk of anemia in Japanese children: findings from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 2歳時点のアレルギーと3歳時点の貧血の関連

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Nutrients

年: 2022 DOI: 10.3390/nu14204335

筆頭著者名: 羊 利敏

所属 UC 名: メディカルサポートセンター

目的:

先行研究において、アレルギーと貧血の関連が指摘されているが、縦断的な検討は限られている。本研究では、子どもの2歳時点のアレルギーと3歳時点の貧血との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査参加者のうち、単胎児 80,943 名を対象とし、2歳時点のアレルギーと3歳時点の貧血データを用いて、関連を調べた。アレルギーの有無は、2歳時点の調査票の回答もしくは保護者の申告か医師の診断による症状の有無から判断した。貧血については、2歳時以降3歳時点までの医師による診断の有無について、保護者の調査票で確認した。

結果:

交絡因子で調整後、2歳時点の喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギーは、いずれも3歳時点の貧血と有意な関連が認められた。病態に関わらず、2歳時点でいずれかのアレルギーがあることは、3歳時点の貧血と関連した(オッズ比 1.80、95%信頼区間 1.41-2.29)。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果は、アレルギーはその後の貧血の危険因子であることを示唆している。研究の限界としては、1)アレルギーと貧血は質問票から得られた情報であり、2)無症状の貧血児が正常児として扱った点、3)統計モデルには他の重要な交絡因子を含めていなかった点、等が挙げられる。

結論:

エコチル調査の全体調査参加者の解析結果から、2歳時点のアレルギーは3歳時点の貧血の発症と関連があることが分かった。